

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274100524		
法人名	社会福祉法人寿康会		
事業所名	グループホーム高松		
所在地	静岡県駿河区高松2625		
自己評価作成日	令和2年9月12日	評価結果市町村受理日	令和2年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UjyosyoCd=2274100524-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響で、外出、面会、行事が中止になり、生活にハリが無くなった。ほとんどが生活保護で、経済的面で余裕が無かったため、少しゆとりが出来た。機能面での緩やかな低下があり、歩行できる方が少なくなった。その分介護の負担が大きくなったが、職員間で工夫しながら実施している。今まで、元気に生活していた方が車いすになり、普通の食事が出来た方が、ペースト食になり、それでも、誤嚥しないように注意しながら介助している。これまでの経験が生かされて、入居者の生活を支えられていることはホームの力だと思っている。最後まで、ホームで暮らせることを目標に、職員も頑張っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療体制と食事提供が充実している事業所です。管理者が看護師なことで協力医との連携も円滑で、例えば洗腸一つとっても判断と実践が速やかなことから入居前に比べスッキリとした毎日が送れている人が少なくありません。薬局も迅速対応で、粉砕等要望に随時応えてくださいます。またホーム長と職員1名は、和洋其々の調理人だったことから、イベントや行事にはプロの力を遺憾なく発揮しています。グループホームでは希少となってしまう「買い物」と「手作り調理」が励行され、当日の勤務者が1週間のバランスを考慮しつつ、利用者のリクエストにも応えており、ミキサー食も手づくりで食が進んで太ってしまった利用者もいる程です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本にして、みんなが見える位置に掲示し、共有できるようにしている。また、ホーム独自の行動指針を定めて、さらに実践していく。	理念からは「個人を尊重する」ということを受けとめ核としています。「家族のように」と接する中、自分の考えを押し付けでしまう場面もあり、そんなときはホーム長が膝詰めで話し合う場を設け、都度気づきを促しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、行事などが中止となり、交流出来ていない。	地域の皆さんと盛り上がっていたカラオケ、クリスマス会、夏祭りの数々がコロナ禍で中止となっています。それでもBBQは中庭に場所を移し、内輪で愉しむ日を設けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に大きな活動はしていないが、ホームの見学や相談は積極的に受け入れるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で開催されなかったが、年間の開催予定については提出している。	3月は中止、5月は外部者を入れずにホーム長と管理者で話し合う形式で議事録をまとめています。7月(実際は8月実施)も同様におこない、今後も終息が見えなければこの形の予定です。	条例下の取組みのため、資料作成だけでなく「見た(確認した)」との返信とともに意見をもらう仕組みをつくり、書面開催として整備することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方がほとんどで、入居費用がギリギリになっている。担当者とも連絡を取りながら、今後の生活を支えられるようにしたい。	生活保護受給者8名の内半数には権利擁護の担当者がついているほか、生活支援課とも普段から相談の場をもち連携しています。中には法人で補てん(減免)している人もおり、行政運営に協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。より、徹底出来ていると思う。会議を開いていないため、内部研修の場が無かった。	何かあればホーム長が指導ならびに相談に入る仕組みが浸透しており、またほとんどの利用者に家族がいないことから、管理者ともども「話を聞く」ことに努め、早め早めに動くことで防止につなげています。	身体拘束廃止未実地減算については、この機会に書面を整備し、指針と議事録、研修会記録を1つのファイルに収め、職員も閲覧できることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にあたることは無いと思うが、言葉での虐待もあるため、ホーム長が中心となり、その都度対応している。問題となったときには、その場で指導している。入居者からの聞き取りも定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	面会も制限されて、口頭での様子報告だったが、大きな問題は無かった。年々、経済面で大変になっていると感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明等、出来ていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で、面会が禁止されたので、外部からの意見の反映は出来にくかった。	娘さんがいる利用者1名のみ家族の存在があり、他は家族をもっていません。娘さんとの関係は当初破たんしていましたが、本人が徐々に穏やかになったことから、現在は関係が修復されています。	事業所通信や家族への便りなど、送る存在がなくても「高松アルバム」として作成することで、職員育成を含め今後につながることを祈念します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議も開催出来ていないが、毎日、朝のミーティングに施設長が参加することで、健康面や問題点は共有することが出来たと思う。	若いホーム長には職員も言いやすいのか、人間関係や業務上のことなど多岐にわたり話が持ち込まれています。自立性に課題は残るものの、諭したり説明することを通じて信頼関係がつけられ、功奏しています。	コロナ禍で会議が中止されていますが、回覧等の書面開催や個人面談で代替があることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部の施設長と連絡を取りながら、環境の整備に努めている。学習ビデオシステムの導入により、学習できる環境を整えている。なかなか実施出来ていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は中止の状況だが、今後、ビデオ学習や内部研修をして、力量を高めたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流は出来なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	長く入居されていることで、たんたん機能が低下してきても、新しいスタッフに、以前の様子などを伝えることによって、より、本人の姿を知ってもらえていると思う。また、本人が安心して過ごせるように、定期的に声を聴いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面会が禁止されたことにより、ほとんど会えていない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用は出来ないため、ホームで安心して過ごせる対応を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員数が多かったため、介護の必要な方には十分に出来たと思う。歩行出来なくなったことで、自分の部屋で自由に過ごすことが出来にくくなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	身寄りがないケースが多いため、家族には負担をかけないことを第一にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状では難しい。	片マヒなので片手で上手にタオルたたみを率先してやってくれる女性利用者、10袋余りのゴミを出して、その後のネットかけも丁寧におこなってくださる男性利用者と、此処での「馴染みなこと」が生まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支えあえるような関係は基本的には難しい。個々の気持ちが落ち着ける場所で、生活したいスタイルで過ごしてもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状ではそのようなケースはない。看取りをしているため、最後の時を穏やかに過ごせることを第一にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出したい意向はあったが実施出来なかった。	「わたしだけ蕎麦つゆがなかった」というプチ事件ではホーム長に思いを吐露してスッキリしたり、「宝くじを買いたい」要望には生活保護では難しいことを説明したりと、日々の手厚い会話が意向把握へと実っています。	生活歴が不明な人はかりで、在宅の介護支援専門員からの情報も薄いとのことですが、此処での生活のなかからの「わたしの暮らし方」等、フェイスシートの作成が進むことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握することは難しく、情報の少ない中での暮らしとなっている。今の、一人一人の生活を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の進行や、機能低下により、一人で自由に生活できる方が少なくなった。寝たきりで過ごす方もいるが、出来るだけ車いすに座る時間を作っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議が実施出来ないことから、朝のミーティングを情報交換の場にしてきた。問題や計画などはその情報を大事にして作成している。	「もっと食べてもらいたい」「眠りが浅い、どうにかならないか」といった朝夕の課題が介護支援専門員(管理者・看護師)に随時あがり、医療経験に基づく的確な介護計画書へと仕上がっています。	現在の介護計画書は健康・医療を核とした身体ケアが中心です。今後は情動(嬉しい、楽しい)も増えてくると、なおよいと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残すことは基本にしながら、健康面や気になることは日報やホワイトボードでの連絡を徹底している。その伝達方法が徹底して、共有が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何かあれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療を受けながら、緊急時にも対応できている。	専門医は職員が通院介助しており、内科は月2回看護師を伴って訪れる協力医に全員が変更しています。立ち合いは管理者(看護師・介護支援専門員)がおこない、個人記録と日報に記録を残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師のため、いつでも相談、処置出来る利点を生かし、連携出来ている。インシュリン、バルーン交換、浣腸等、定期的に実施。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は無かった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは無かったが、癌の方もいるため、今後、病状の悪化も考えられる。本人と話し合いながら、望むような生活を考えていきたい。また、重度化しているため、個々にあったケアを考えていきたい。	管理者が看護師であり、協力医も24時間オンコールで看取り体制が整っています。重度化しても移動できる間はリビングに置いたベッドで日中過ごしていますが、終日居室となれば、「褥瘡をつくらない」を合言葉に、職員が頻回に2階へあがっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥もあるため、看護師への連絡を徹底している。繰り返す誤嚥に関しては、食事形態の変更や薬の投与で落ち着いた。職員が連携して、介助方法など伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。特に夜間の避難訓練については実施出来ていない。今年度中に、実施していきたい。法令にもとづく設備については設置出来ている。	年2回の法定訓練は併設の生活介護事業所が防火管理者として計画を作成しており、非常食の管理はホーム長おこなっています。併設事業所とは夜間対応等お互い助け合うことになっていて、その点安心です。	次の2点を期待します。①新任者が訓練に参加できるようシフトを組むこと ②新人オリエンテーションに避難経路や通報の説明を入れる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ベットでの生活が増え、おむつ交換などついでを使用しながら、プライバシーの確保に努めている。	管理者、ホーム長のスクラムで「よくない事象は早めに摘みとる」ことが叶い、入職したばかりのときは少し上に立ったもの言いの人も示唆を重ねると先輩に習ってゆくことが出来ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか希望通りにはいかないが、聞くようにしている。一度、利用者が外に出て、行方不明になり、その前後の気持ちをしっかりと把握していればと反省している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても、職員の仕事の流れに合わせることが多いが、無理強いせず、本人の気持ちを大切に、1日を過ごしてほしいと思っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	暑い夏だったが、暑さを感じられないことが多く、冬の服のままで過ごす方もいた。気持ちを大切にしながらも、熱中症にならないように注意した。散髪等、職員がやり、経済的に負担にならないようにした。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日手作りの献立にこだわり、昼食や夕食は、おいしいにおいがして、食欲が出るように思う。ペースト食についても、手作りにして、市販の物は使っていない。	当日の勤務者が「得意な物」「1週間のバランス」「リクエスト」を考慮しつつ、「買い物」「手作り」とグループホームの真骨頂を貫いた食事提供を続けています。ペースト食も手作りで、太ってしまう人もいる程です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好も把握出来ていて、その都度、嫌いなものや食べにくいものは、変更した。嚥下が困難になったケースは、安全を重視した。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	充分とはいえないが、特に夜は、しっかりと口腔ケアをして、誤嚥などが無いようにした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人にあった、排泄の方法を検討して、おむつ交換、トイレ誘導をしてきた。出来るだけ、トイレで排泄するように、立てる力を維持してきた。	排泄については日誌に記録を残しており、管理者が看護師なことから浣腸への判断と実践が速やかで、入居前に比べスッキリとした毎日が送れている人が少なくありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の定期的な摂取、下剤の服用、浣腸の実施等、個々に合わせた対策をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の時間で入浴は決められているが、体調が悪い日の清拭も徹底できたと思う。立つことが難しくなった方の入浴は二人介助で実施している。	週2回を清潔の目安としています。「浴槽をまたぐ」「立位が保てる」「安全に心配がない」人は2名のみです。大半の人がシャワーで洗身後、全身ミスト浴という方法で、傍らで見守る職員とおしゃべりを楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベット生活以外の方でも、体調や、体の変化により、体力おちてきた場合には、積極的に昼寝や休息をとるようにして、長時間の車いす使用は避けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がいるため、管理出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なかなか難しいが、洗濯ものの整理、食器の片づけ等、出来ることはやってもらうようにしている。本人からの希望は出来るだけかなえられるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は出来ない。今後の様子を見ながら検討したい。	コロナ禍前は「富士川楽座」「夢テラス」「掛川花鳥園」「芝桜」と少し遠出も頑張り、日常ではイトーヨーカ堂やアピタで買い物外出ができていましたが、現在は利用者も報道で理解していて「出たい」の声もほとんど聞かれません。	散歩や外気浴も嫌い、苦手という利用者ばかりとのことですが、運動プログラムはできるだけ取り入れていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	経済的に厳しく、自由に使えるお金はほとんど無い人が多い。自分で現金を管理できる人は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援はしているが、ほとんど利用はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は徹底していて、清潔に保っている。本人のこだわりが強い方は難しい面もあるが、体調を崩さないように気を付けている。	一時に比べ職員数も増え、また総意で整理整頓、衛生に取組み、フロアが格段にきれいになっています。消毒、換気は2時間に1回とともに、職員が利用者の汚れをよく見てすぐ対処しており、コロナ禍で、爪の伸び具合にも目が行き届くようになったとの効用があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごすことが好きな方が多いので、希望に添えるように個々の場所を決めている。歩行が困難になり、転倒の危険がある方は、一緒に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	殺風景な部屋が多いが、事務所の前の壁には、日常風景の写真をはり、楽しみの一つにしている。	音楽やラジオを聞いて独りで居室で過ごすことが好きな人が3、4名います。プラスチックの衣装ケースのみの部屋が多いものの、中には障害の手当があるため大型のものを買い替えることが出来る人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	機能低下により、自立できる生活が送れる方が減ったが、個々に合わせた環境を作れるようにしている。		